

第1回 長久手町住民会議報告

日 時：平成 20 年 3 月 25 日（火） 午後 7 時～9 時 15 分

場 所：役場西庁舎 3 階研修室

住民会議メンバー：14 名

事 務 局：長久手町経営企画部長、企画課長、企画課長補佐、企画課経営企画係長、
企画課専門員、コンサルタント 3 名

当日のプログラム

あいさつ

議 題

- ・第 5 次総合計画策定の趣旨
- ・住民会議の目的・役割等について
- ・長久手町の現状について
- ・意見発表
- ・その他



(1) あいさつ

冒頭に経営企画部長があいさつを行い、今回の住民会議は長久手町総合計画の策定プロセスで初めての試みであり、参加者のみなさまと遠慮なく意見交換をしていきたい旨を伝えました。



(2) 第 5 次総合計画策定の趣旨

事務局より、長久手町総合計画の第 1 次～第 4 次までの策定経緯、第 4 次総合計画の概要、今回の総合計画で力を入れる住民参加を重視した計画づくりなどを説明しました。

(3) 住民会議の目的・役割等について

事務局より、住民会議を行う目的、会議の役割、今後の進め方を説明しました。

(4) 長久手町の現状について

事務局より、周辺と比べて堅調な人口増加、年齢層が低い人口構成、近年はサービス業を中心とした就業の場になっていることなど、長久手町の現状について説明しました。

(5) 意見発表

自己紹介と長久手町の将来像に対する思いを
一人ひとり語っていただきました。

町の印象など、 将来像

昔は亜炭が採れる「チベット」のような場所だった。急激に町が発展したと思う。都市と田園のバランスを保って発展していくまちになってほしい。

長久手は里山を残しながら発展している理想的な町だったので定住を決めた。「愛知県のバチカン市国」といえるような町にしていきたい。

鳥山明作の漫画「Dr.スランプのペンギン村」のモチーフになったという説もある。町南部は区画整理が進むが、以前のようにできるだけ緑を残してほしい。

町内に残る貴重な歴史資料を公開できるような場所があればいいと思う。

生まれも育ちも長久手。地元の間人には長久手の良さを気づきにくい。みなさんからの意見を聞く中で長久手の良さを勉強したい。

30年間でおしゃれな家が建ち並ぶ町に変わった。電柱の地中化など景観に配慮したまちづくりを進めてほしい。

20数年間ですざまじい変化を遂げた。グローバル化を目指し、「ネットワーク型都市」の方向に進むべき。近隣都市との差別化を図ることも大切。

仕事の関係で名東区に移り住んだあと長久手町に移り住んだ。住み心地がよく、ござらっせで地産のものをよく買う。

香流川の雰囲気がいよい。田園バレー構想に川づくりの視点を入れたい。

子育てがしやすい町。人口増は長久手町にとってすべてが良いことなのか。行政と住民・NPOとの協働、学生の参加について考えたい。

長久手の財産は「人」だと思う。「人づくり」を大切にするまちを目指したい。

万博を契機として、ボランティア活動に関わっており、こうした活動が盛んになった。

ござらっせの近く住んでいるが、30年前とほとんどかわっていない。

岩作の早稲田地区は、昔は長久手の本町通りだったと身内からよく聞く。